

要望書

平成30年3月16日
浜 松 市

浜松市政の推進につきまして、日ごろから格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市は、平成 17 年 7 月の天竜川・浜名湖地域 12 市町村の合併により、1,558 km²という広大な市域を有し、都心の活性化から中山間地域の過疎対策まで、多様な課題に取り組んでいます。また、平成 19 年 4 月には政令指定都市に移行し、地域をけん引する更なる役割を担うとともに、総合計画に掲げる都市の将来像「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」の実現に向け、地方創生に取り組み、一層の飛躍を目指しております。

本市は市域の約 65%が中山間地域であり、過疎化・少子化・高齢化による人口減少や地域の維持が困難になりつつあります。特に天竜区では、ガソリンスタンドの廃業が相次いでおります。自家用車への給油だけではなく、農業機械への給油や移動手段を持たない高齢者宅への灯油配送などに支障をきたしており、中山間地域に居住する住民の安定的な燃料供給体制を維持することが課題となっております。

こうした状況の中、本市においては、将来を見据え、経済産業省が進める SS 過疎地対策検討支援事業の計画づくりに取り組みたいと考えております。今後さらに人口減少が進むことにより、SS 過疎地域は拡大するものと見込まれます。限られた財源で新たに既存の SS を新設することは困難です。このため、経済産業省のご指導のもと、従来にない燃料供給体制を構築していきたいと考えておりますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月 16 日

浜松市長 鈴木 康 友

浜松市天竜区への臨時給油所の整備について

市民協働・地域政策課

1 浜松市天竜区のSSの状況

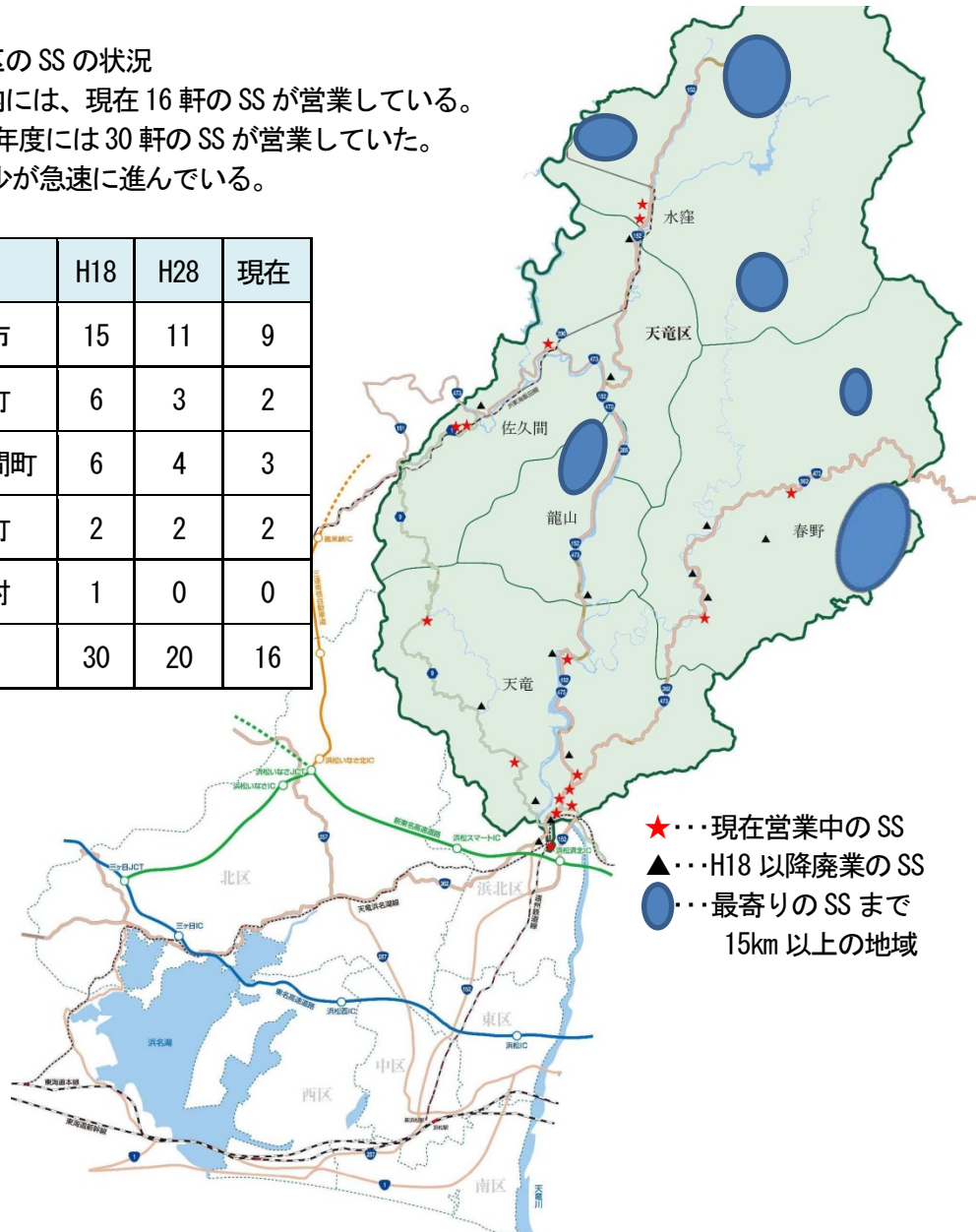
(1) 浜松市の状況

浜松市は、静岡県西部に位置する人口約80万人、市域1558.06km²の政令指定都市である。平成17年7月の12市町村合併により現在の浜松市となり、平成19年4月には、政令指定都市へ移行した。旧天竜市・旧水窪町・旧佐久間町・旧春野町・旧龍山村は「天竜区」となった。天竜区のうち、春野、佐久間、水窪、龍山が過疎法の指定地域であり、天竜区全域が浜松市中山間地域振興計画の対象地域とされている。浜松市は市域の約65%が中山間地域であり、過疎化・少子化・高齢化による人口減少や地域の維持が困難になりつつある。「ひとつの浜松で築く中山間地域の未来」を基本理念として、オール浜松体制で中山間地域振興に取り組んでいる。

(2) 天竜区のSSの状況

天竜区内には、現在16軒のSSが営業している。平成18年度には30軒のSSが営業していた。SSの減少が急速に進んでいる。

地域	H18	H28	現在
旧天竜市	15	11	9
旧春野町	6	3	2
旧佐久間町	6	4	3
旧水窪町	2	2	2
旧龍山村	1	0	0
合計	30	20	16



(3) 天竜区内のSS過疎地域

SS過疎地域は、「市町村内のSSが3か所以下または最寄りのSSまで15km以上ある住民を抱える自治体」と定義される。

天竜区内の合併前の市町村単位では、春野、佐久間、水窪、龍山の各地域でSSが3か所以下に該当する。

最寄りのSSまで15km以上離れている住民が存在する集落は、天竜区内225集落のうち、少なくとも22集落以上存在していると推定される。

中山間地域は、急峻な地形が多く、主要道から離れた山上の地域などは、15km以内の道路距離であっても、1時間以上の時間を要する集落もある。

龍山は地区内にSSがなく、天竜区横山のSSが最寄りとなり、15kmを超える地域が多い。

【天竜区内の集落とSSの状況】

	SSの数	集落数	最寄りのSSまで15km以上離れた集落（推定）
旧天竜市	9	80	0
旧春野町	2	41	5 石切、大時、越木平、田河内、花島
旧佐久間町	3	37	1 上平山
旧水窪町	2	33	8 門谷、夏焼、大嵐、草木、有本、時原、大寄、門桁
旧龍山村	0	34	8 尾曲、中村、寺尾、下茶、下里、日入沢、千代、平沢
	16	225	22

※集落から最寄りのSSまでの道路距離を地図上で測定して推定した。

2 地域住民からのSS設置を求める要望について

SSの廃業により、自治会や天竜区協議会などでSS減少への対策がたびたび取り上げられている。

龍山地区では、すでに地区内にSSはなく隣接する天竜地区の最寄りの給油所を利用している。

春野地区では、SSが2件まで減少し、うち1軒は数年以内に廃業の意向を示していることもあり、自治会連合会から要望書が提出された。

特に平成28年以降4軒が廃業しており、急激な減少が地域の不安につながっていると考えられる。

【地域住民からの声】

平成26年8月	龍山地区（旧龍山村地域）の地域運営組織としてNPO法人ほっと龍山を設立する際、SS事業を行う事を検討したが、初期投資や消防法に対応するための、コストに不安があり、事業化を断念。
平成28年9月	天竜区協議会において委員より、SSの減少により今後給油が出来なくなる事が考えられるため、地域課題として意見を聞きたい旨問題提起
平成28年10月	9月の天竜区協議会での問題提起を受け、区振興課が区内のSS設置状況の資料提供と今後における支援の検討をして行く旨を回答。 龍山地区の委員より、「龍山地区はSSが廃業し無くなってしまった。高齢者などは自宅消費用の燃料の調達に困っている」旨の発言があった。
平成29年7月	春野地区自治会連合会理事会では、減少するSSの対策としてJA遠州中央に経営を要望する方針を決めた。地域のSS経営者2名とも相談し、同意を得る。
平成29年12月	天竜区長に対し、春野地区自治会連合会から「天竜区春野町地内における自動車等の燃料給油所減少危機対応に関する要望書」が提出された。

3 SSの新規建設による対応について

SSを新規建設する場合には、建物の建設や給油設備の設置等多額の費用が必要となる。
 タンク1本、計量器各1基ずつという最低限の規格のSSでも、約4~5千万円超の設置費用となり、補助金を活用してもなお、約2,400万円~約4,700万円の事業者負担が発生する。
 開業後も、消防法や計量法に基づく点検や検定、設備の更新等が必要となる。
 天竜区内の人口は現在、約3万人であり今後も減少が続くものと推計されている。
 少子高齢化に伴い、浜松市全体の人口も減少していくと考えられるが、天竜区は都市部と比べ特に急速に人口が減少し、平成52年には現在の半以下になると予測される。(表1)
 また、高齢化率も都市部と比べ高い割合で推移しており、5割を超える地域も多い。(表2)
 このような状況であり、SSの新規建設は、コスト面や採算などの課題から厳しい状況にあると考える。
 SSが既に1か所もない龍山地域では、地域運営組織としてNPO法人が発足しており、設立時にSS事業を行う事も検討されたが、コスト面から不安があり、事業化を断念した経緯がある。

【SSを新規設置する場合の標準的な費用】

	規 格	総事業費	補助金	自己負担
ケース1	敷 地 100.04 m ² タンク 20KL 1本 計量器 マルチ 1基 灯 油 1基	44,281 千円	5,000 千円 ~ 20,000 千円	24,281 千円 ~ 39,281 千円
ケース2	敷 地 148.84 m ² タンク 30KL 1本 計量器 マルチ 1基 灯 油 1基	52,408 千円	5,000 千円 ~ 20,000 千円	32,408 千円 ~ 47,408 千円

出典：SS 過疎対策ハンドブック (SS 過疎地対策協議会)

表1【将来推計人口(上段)・5年ごとの増減率(下段)】

	H22年	H27年	H32年	H37年	H42年	H47年	H52年	H57年	増減率 H22~ H57
浜松市全域	800,866	796,490	784,867	768,049	747,511	723,542	694,887	664,406	-17.04%
		-0.55%	-1.46%	-2.14%	-2.67%	-3.21%	-3.96%	-4.39%	
天竜区	33,957	30,311	26,821	23,567	20,571	17,785	15,099	12,619	-62.84%
		-10.74%	-11.51%	-12.13%	-12.71%	-13.54%	-15.10%	-16.42%	

表2【住民基本台帳から見た65歳以上人口比率の状況】

	H18年	23年	28年	29年
浜松市全域	20.41%	22.82%	25.96%	26.51%
天竜地域	28.69%	31.01%	35.13%	36.11%
春野地域	38.11%	40.64%	47.44%	48.77%
佐久間地域	46.28%	50.51%	55.62%	57.37%
水窪地域	42.43%	49.12%	56.16%	57.30%
龍山地域	43.02%	51.25%	58.65%	60.31%

4 小規模な燃料供給拠点の設置及び臨時給油所の開設について

- (1) バスやタクシーなど公共交通機関が乏しい中山間地域では、自動車は必要不可欠な交通手段である。
- (2) 天竜区内には、平成 18 年時点で 30 か所の SS が営業していたが、平成 30 年 1 月には 16 か所まで減少しており、廃業が著しい。
- (3) SS の廃業は、自家用車への給油だけではなく、農業機械への給油や移動手段を持たない高齢者宅への灯油配送などに、支障をきたしている。
- (4) SS の設置は、初期費用や開業後の維持管理など多大なコストが負担となり、人口減少が進む中では、採算性に乏しく民間企業や地域の NPO 法人による新規設置は困難である。
- (5) 仮に新規設置があった場合、SS は開業後も維持管理に多大なコストが必要であり、安定・継続した事業の運営には条件が厳しく、開業と廃業の繰り返しになる恐れがある。
- (6) このような状況下で、中山間地域に居住する住民の安定的な燃料供給体制を維持するためには、現行の支援だけではなく、SS に対する新たな取り組みが必要である。



中山間地域の住民の生活を維持するためには、臨時給油所の設置などの供給手段の多様化も含め、燃料供給拠点の整備・維持に係るコストの低減が必要不可欠であり、現行の枠組みにとどまらない新たな燃料供給モデルの確立が必要である。